

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【公開番号】特開2009-61137(P2009-61137A)

【公開日】平成21年3月26日(2009.3.26)

【年通号数】公開・登録公報2009-012

【出願番号】特願2007-232267(P2007-232267)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 B

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月3日(2010.9.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、

前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、

前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材とを設け、

前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置側に移動することを規制され、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが交差するように、且つ、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置にある場合、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合に前記第 2 蓋部材の占める領域の少なくとも一部に前記第 1 蓋部材が位置するように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けたことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記第 1 蓋部材を、前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置側に移動させた場合に前記第 1 露出位置でそれ以上の移動が規制される構成とし、前記第 2 蓋部材を、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置と前記第 1 露出位置との間の規定位置にある場合に限り、前記第 2 露出位置側への移動が許容される構成としたことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記第 1 蓋部材には、前記第 1 蓋部材が前記規定位置にある場合に前記第 2 蓋部材を挿入させることが可能な挿入部を設けたことを特徴とする請求項 3 に記載の遊技機。

【請求項 5】

前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】遊技機

【技術分野】

【0001】

本発明は、スロットマシン等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

例えばスロットマシン等の遊技機においては、遊技に関する制御を行うための制御装置が筐体内部に設けられており、当該制御装置により、当たり抽選や遊技媒体の付与に関する制御等が行われるようになっている。また、制御装置には、例えばビッグボーナス役等の所定役の当選確率が異なる抽選テーブルが予め複数記憶されており、筐体内部には、当たり抽選の際に用いる抽選テーブルを設定するための操作部が設けられている。そして、遊技機を設置する遊技場の管理者等が操作部を操作することにより、遊技媒体の出率（使用された遊技媒体に対する付与した遊技媒体の割合の期待値）を調整できるようになっている。

【0003】

設定されている抽選テーブルを変更する（設定変更する）場合には、先ず、筐体の前面側を覆う前面扉を開放し、筐体内部に設けられた電源スイッチをオフ操作して電源を遮断する。その後、第 1 操作部としての設定キースwitchに設定キーを挿入して設定キースwitchをオン操作し、かかる状態で電源スイッチをオン操作して電源を復旧させる。そして、第 2 操作部としての設定変更スイッチを操作することで所望の抽選テーブルを選択し、スタートレバーを操作することで抽選テーブルを決定する。その後、設定キースwitchをオフ操作する。上記操作を行うことにより、それ以降の当たり抽選が選択された抽選テーブルを用いて行われるようになる。

【0004】

かかる構成の遊技機においては、電源スイッチ、設定キースwitch及び設定変更スイッチが筐体内部に設けられており、遊技場の管理者等に限って前面扉を正規に開放できるため、遊技場の管理者等によって設定された抽選テーブルから当該抽選テーブルより出率の高い抽選テーブルに変更される不正を抑制することが可能となる（例えば特許文献 1 参照）。

【0005】

【特許文献 1】特開 2007 - 181622 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、例えば前面扉と筐体の隙間から針金等を筐体内部に挿入し、前面扉を開放することなく設定を変更する不正行為が考えられ、かかる不正行為は、前面扉が開放されないために発見が困難であると考えられる。

【 0 0 0 7 】

なお、以上の問題は、抽選テーブルを複数備えたスロットマシンに限らず、遊技機内部に設けられた操作部を操作することで設定変更を行うことが可能な他の遊技機にも該当する問題である。

【 0 0 0 8 】

本発明は上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能な遊技機を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

請求項 1 に記載の発明では、第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材とを設け、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置側に移動することを規制され、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

以下、本発明の遊技機を手段として区分して示し、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお以下においては、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

【 0 0 1 2 】

手段 1 . 遊技機前方に開口された筐体と、

該筐体の開口側に開閉可能に取り付けられた扉体とを備え、

遊技機内部に設けられた第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、

前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、

前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材とを設け、

前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置側に移動することを規制され、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 3 】

手段 1 によれば、第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置にスライド移動可能な第 1 蓋部材と、第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置にスライド移動可能な第 2 蓋部材を設けたため、遊技機を

設置する遊技場の管理者等が出率を設定した後、各蓋部材を対応する被覆位置に移動させた後に扉体を閉鎖すれば、扉体を開放することなく前記設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

また、第1蓋部材が第1被覆位置から第1露出位置に移動する向きと、第2蓋部材が第2被覆位置から第2露出位置に移動する向きとが異なるように第1蓋部材と第2蓋部材を取り付けたため、筐体と扉体の隙間から針金等が挿入され、一方の蓋部材が対応する露出位置側に移動するよう前記針金等により引っ張られたとしても、他方の蓋部材が対応する露出位置に移動することを防止することができる。故に、仮に扉体を開放することなく筐体と扉体の隙間から針金等が挿入されたとしても、第1操作部と第2操作部を共に露出させることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。加えて、針金等を用いて両蓋部材を対応する露出位置に移動させるためには、筐体と扉体の隙間から針金等を複数挿入させ、これら針金等を異なる向きに引っ張る必要がある。故に、不正行為を目立たせることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。

さらに、第1蓋部材が第1被覆位置にある場合、第1蓋部材により第2蓋部材が第2露出位置側に移動することを規制される。かかる構成においては、第1蓋部材を第1露出位置側に移動させない限り、第2蓋部材を第2露出位置に移動させることができず、第1蓋部材を第1露出位置側に移動させた後に第2蓋部材を第2露出位置側に移動させる必要がある。このように、両操作部を露出させるためには各蓋部材を特定の順序で移動させる必要がある構成とすることにより、両操作部が不正に露出されることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【0014】

このように両操作部が不正に露出されることを困難な構成とした場合、遊技機を設置する遊技場の管理者等が設定を変更する際の作業すなわち正規に設定を変更する際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。そこで、第2蓋部材が第2露出位置にある場合、第2蓋部材により第1蓋部材が第1被覆位置側に移動することを規制される構成とした。かかる構成とすることにより、遊技場の管理者等が第1蓋部材を第1被覆位置に移動しないように保持するのではなく第2蓋部材により第1蓋部材を保持させることが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【0015】

以上の結果、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制しつつ、不正に設定が変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【0016】

なお、「第1操作部（第2操作部）を覆う」とは、第1操作部（第2操作部）が操作不可能に覆われていれば良い。以下も同じである。

【0017】

手段2．上記手段1において、前記第1蓋部材が前記第1被覆位置から前記第1露出位置に移動する向きと、前記第2蓋部材が前記第2被覆位置から前記第2露出位置に移動する向きとが交差するように、且つ、前記第1蓋部材が前記第1被覆位置にある場合、前記第2蓋部材が前記第2露出位置にある場合に前記第2蓋部材の占める領域の少なくとも一部に前記第1蓋部材が位置するように前記第1蓋部材と前記第2蓋部材を取り付けたことを特徴とする遊技機。

【0018】

手段2によれば、第1蓋部材が第1被覆位置から第1露出位置に移動する向きと、第2蓋部材が第2被覆位置から第2露出位置に移動する向きとが交差するように、且つ、第1蓋部材が第1被覆位置にある場合、第2蓋部材が第2露出位置にある場合に第2蓋部材の占める領域の少なくとも一部に第1蓋部材が位置するように第1蓋部材と第2蓋部材が取り付けられている。かかる構成とすることにより、第1蓋部材が第1被覆位置にある状態で第2蓋部材を第2被覆位置から第2露出位置側に移動させようとした場合に、第2蓋部材が第1蓋部材と当接することで第2露出位置側への移動を規制できる。

【 0 0 1 9 】

手段 3 . 上記手段 2 において、前記第 1 蓋部材を、前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置側に移動させた場合に前記第 1 露出位置でそれ以上の移動が規制される構成とし、前記第 2 蓋部材を、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置と前記第 1 露出位置との間の規定位置にある場合に限り、前記第 2 露出位置側への移動が許容される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 0 】

手段 3 によれば、第 2 蓋部材は、第 1 蓋部材が規定位置にある場合に限り、第 2 露出位置側への移動が許容される。かかる構成とすることにより、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。筐体と扉体の隙間から針金等が挿入され、第 1 蓋部材が第 1 露出位置側に移動するよう前記針金等により引っ張られた場合、第 1 蓋部材は規定位置を通過し第 1 露出位置でそれ以上の移動が規制されることとなるが、第 1 蓋部材が第 1 露出位置にある場合、第 2 蓋部材は第 2 露出位置側への移動が規制されたままであり、第 2 操作部を露出させることができないからである。

【 0 0 2 1 】

手段 4 . 上記手段 3 において、前記第 1 蓋部材には、前記第 1 蓋部材が前記規定位置にある場合に前記第 2 蓋部材を挿入させることが可能な開口部を設けたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 2 】

手段 4 によれば、第 1 蓋部材には、第 1 蓋部材が規定位置にある場合に第 2 蓋部材を挿入させることが可能な開口部が設けられている。かかる構成とすることにより、第 1 蓋部材を規定位置に移動させれば第 2 蓋部材の第 2 露出位置側への移動規制を解除することができ、遊技機を設置する遊技場の管理者等が出率を設定する際の作業、すなわち正規に出率を設定する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 2 3 】

手段 5 . 上記手段 2 乃至手段 4 のいずれかにおいて、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 4 】

手段 5 によれば、第 2 蓋部材が第 2 露出位置にある場合、第 1 蓋部材により第 2 蓋部材の第 2 被覆位置側への移動が規制される。かかる構成とすることにより、第 2 蓋部材が第 2 露出位置にある場合、一方の蓋部材により他方の蓋部材が対応する被覆位置側に移動することを規制することができる。故に、遊技場の管理者等が両蓋部材に対応する被覆位置に移動しないように保持することなく両操作部を操作することが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 2 5 】

手段 6 . 上記手段 3 乃至手段 5 のいずれかにおいて、前記第 1 蓋部材が前記規定位置にある場合、前記第 1 操作部が露出するように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を配置したことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 6 】

手段 6 によれば、第 1 蓋部材が規定位置に位置するとともに第 2 蓋部材が第 2 露出位置に位置する場合には、第 1 操作部と第 2 操作部が共に露出することとなる。故に、遊技場の管理者等が出率を設定する際の作業を容易なものとするのが可能となる。

【 0 0 2 7 】

手段 7 . 上記手段 1 乃至手段 6 のいずれかにおいて、前記第 1 操作部は、遊技媒体の出率を変更する場合と、遊技機を所定の異常状態から正常状態に復帰させる場合とに操作されるものであって、前記第 1 蓋部材を、前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材が共に対応する被覆位置にある場合、前記第 1 露出位置側に移動することを少なくとも前記第 2 蓋部材により規制されない構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 8 】

手段 7 によれば、第 1 操作部は、遊技媒体の出率を変更する場合の他に、遊技機を所定の異常状態から正常状態に復帰させる場合にも操作される。つまり、第 1 操作部は、遊技機を設置する遊技場の営業時間内に操作される可能性がある。そこで、当該第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置に移動可能な第 1 蓋部材は、第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させることなく第 1 露出位置側に移動させることが可能な構成とすることにより、遊技場の管理者等が遊技機を所定の異常状態から正常状態に復帰させる際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 2 9 】

手段 8 . 遊技機前方に開口された筐体と、
該筐体の開口側に開閉可能に取り付けられた扉体と
を備え、
遊技機内部に設けられた第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、
前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、
前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材と
を設け、
前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 露出位置側に移動することを規制され、前記第 1 蓋部材が前記第 1 露出位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 0 】

手段 8 によれば、第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置にスライド移動可能な第 1 蓋部材と、第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置にスライド移動可能な第 2 蓋部材を設けたため、遊技機を設置する遊技場の管理者等が出率を設定した後、各蓋部材に対応する被覆位置に移動させた後に扉体を閉鎖すれば、扉体を開放することなく前記設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 3 1 】

また、第 1 蓋部材が第 1 被覆位置から第 1 露出位置に移動する向きと、第 2 蓋部材が第 2 被覆位置から第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように第 1 蓋部材と第 2 蓋部材を取り付けたため、筐体と扉体の隙間から針金等が挿入され、一方の蓋部材に対応する露出位置側に移動するよう前記針金等により引っ張られたとしても、他方の蓋部材に対応する露出位置に移動することを防止することができる。故に、仮に扉体を開放することなく筐体と扉体の隙間から針金等が挿入されたとしても、第 1 操作部と第 2 操作部を共に露出させることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。加えて、針金等を用いて両蓋部材に対応する露出位置に移動させるためには、筐体と扉体の隙間から針金等を複数挿入させ、これら針金等を異なる向きに引っ張る必要がある。故に、不正行為を目立たせることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。

【 0 0 3 2 】

さらに、第 2 蓋部材が第 2 被覆位置にある場合、第 2 蓋部材により第 1 蓋部材が第 1 露出位置側に移動することを規制される。かかる構成においては、第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させない限り、第 1 蓋部材を第 1 露出位置に移動させることができず、第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させた後に第 1 蓋部材を第 1 露出位置側に移動させる必要がある。このように、両操作部を露出させるためには各蓋部材を特定の順序で移動させる必要がある構成とすることにより、両操作部が不正に露出されることを困難なものとするこ

とができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 3 3 】

このように両操作部が不正に露出されることを困難な構成とした場合、遊技機を設置する遊技場の管理者等が設定を変更する際の作業すなわち正規に設定を変更する際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。そこで、第 1 蓋部材が第 1 露出位置にある場合、第 1 蓋部材により第 2 蓋部材が第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成とした。かかる構成とすることにより、遊技場の管理者等が第 2 蓋部材を第 2 被覆位置に移動しないように保持するのではなく第 1 蓋部材により第 2 蓋部材を保持させることが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 3 4 】

以上の結果、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制しつつ、不正に設定が変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 3 5 】

なお、本構成に上記手段 2 乃至手段 6 のいずれかの構成を適用しても良く、かかる場合には相乗効果が期待できる。但し、かかる場合には、第 1 蓋部材を第 2 蓋部材と読み替えると共に第 2 蓋部材を第 1 蓋部材と読み替えた上で適用する必要がある。

【 0 0 3 6 】

手段 9 . 上記手段 1 乃至手段 8 のいずれかにおいて、遊技及び遊技媒体の出率に関わる主要な制御を実行する制御基板を備え、前記制御基板に前記第 1 操作部と前記第 2 操作部を直接搭載したことを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 7 】

手段 9 によれば、第 1 操作部と第 2 操作部は制御基板に直接搭載されている。かかる構成とすることにより、制御基板と各操作部とを電氣的に接続するケーブル等が不要となり、操作部を操作するのではなく前記ケーブル等をショートさせて設定を変更する不正を防止することが可能となる。

【 0 0 3 8 】

手段 1 0 . 上記手段 9 において、前記制御基板を前記筐体内の後部に配置したことを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 9 】

手段 1 0 によれば、制御基板は筐体内の後部に配置されている。かかる構成とすることにより、筐体の前端部すなわち筐体と扉体の隙間から両操作部までの距離を長くすることが可能となり、針金等を用いて両操作部を操作することを困難なものとすることが可能となる。

【 0 0 4 0 】

手段 1 1 . 上記手段 1 乃至手段 1 0 のいずれかにおいて、前記第 1 操作部及び前記第 2 操作部を、前記筐体から前記扉体が開放されるとともに少なくとも前記各蓋部材が対応する露出位置に移動された場合、遊技機前方から視認可能となる位置に設けたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 4 1 】

手段 1 1 によれば、第 1 操作部及び第 2 操作部は、筐体から扉体が開放されるとともに少なくとも各蓋部材が対応する露出位置に移動された場合、遊技機前方から視認可能となる位置に設けられている。筐体から扉体が開放された場合に遊技機前方から視認可能となる位置に第 1 操作部及び第 2 操作部が設けられた構成においては、遊技場の管理者等が出率を設定する際に各操作部を容易に操作することができる一方、筐体と扉体の隙間から針金等が挿入された場合、前記針金等を用いて容易に各操作部が操作される可能性が懸念される。しかしながら、上記手段 1 乃至手段 1 0 のいずれかの構成を適用することにより、上記懸念を好適に解消することが可能となる。

【 0 0 4 2 】

なお、各蓋部材を透明な合成樹脂材料等により形成した構成においては、筐体から扉体が開放されるとともに各蓋部材が対応する露出位置に移動された場合に限らず、筐体から

扉体が開放された場合にも各操作部が視認可能となる。

【 0 0 4 3 】

手段 1 2 . 第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、

前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、

前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材とを設け、

前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置側に移動することを規制され、前記第 2 蓋部材が前記第 2 露出位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 4 4 】

手段 1 2 によれば、第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置にスライド移動可能な第 1 蓋部材と、第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置にスライド移動可能な第 2 蓋部材を設けたため、遊技機を設置する遊技場の管理者等が出率を設定した後、各移動部材が対応する被覆位置に移動していれば、前記設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 4 5 】

また、第 1 蓋部材が第 1 被覆位置から第 1 露出位置に移動する向きと、第 2 蓋部材が第 2 被覆位置から第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように第 1 蓋部材と第 2 蓋部材を取り付けたため、一方の蓋部材が対応する露出位置側に移動するよう針金等により引っ張られたとしても、他方の蓋部材が対応する露出位置に移動することを防止することができる。故に、第 1 操作部と第 2 操作部を共に露出させることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。加えて、針金等を用いて両蓋部材を対応する露出位置に移動させるためには、針金等を複数挿入させ、これら針金等を異なる向きに引っ張る必要がある。故に、不正行為を目立たせることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。

【 0 0 4 6 】

さらに、第 1 蓋部材が第 1 被覆位置にある場合、第 1 蓋部材により第 2 蓋部材が第 2 露出位置側に移動することを規制される。かかる構成においては、第 1 蓋部材を第 1 露出位置側に移動させない限り、第 2 蓋部材を第 2 露出位置に移動させることができず、第 1 蓋部材を第 1 露出位置側に移動させた後に第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させる必要がある。このように、両操作部を露出させるためには各蓋部材を特定の順序で移動させる必要がある構成とすることにより、両操作部が不正に露出されることを困難なものとし、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 4 7 】

このように両操作部が不正に露出されることを困難な構成とした場合、遊技機を設置する遊技場の管理者等が設定を変更する際の作業すなわち正規に設定を変更する際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。そこで、第 2 蓋部材が第 2 露出位置にある場合、第 2 蓋部材により第 1 蓋部材が第 1 被覆位置側に移動することを規制される構成とした。かかる構成とすることにより、遊技場の管理者等が第 1 蓋部材を第 1 被覆位置に移動しないように保持するのではなく第 2 蓋部材により第 1 蓋部材を保持させることが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 4 8 】

以上の結果、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制しつつ、不正に設定が変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 4 9 】

手段 1 3 . 第 1 操作部及び第 2 操作部が操作されたことに基づき遊技に用いる遊技媒体の出率を変更する遊技機において、

前記第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置と、前記第 1 操作部が露出する第 1 露出位置とにスライド移動可能な第 1 蓋部材と、

前記第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置と、前記第 2 操作部が露出する第 2 露出位置とにスライド移動可能な第 2 蓋部材と
を設け、

前記第 1 蓋部材が前記第 1 被覆位置から前記第 1 露出位置に移動する向きと、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置から前記第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように前記第 1 蓋部材と前記第 2 蓋部材を取り付けるとともに、前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置にある場合、前記第 2 蓋部材により前記第 1 蓋部材が前記第 1 露出位置側に移動することを規制され、前記第 1 蓋部材が前記第 1 露出位置にある場合、前記第 1 蓋部材により前記第 2 蓋部材が前記第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 5 0 】

手段 1 3 によれば、第 1 操作部を覆う第 1 被覆位置にスライド移動可能な第 1 蓋部材と、第 2 操作部を覆う第 2 被覆位置にスライド移動可能な第 2 蓋部材を設けたため、遊技機を設置する遊技場の管理者等が出率を設定した後、各移動部材が対応する被覆位置に移動していれば、前記設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 5 1 】

また、第 1 蓋部材が第 1 被覆位置から第 1 露出位置に移動する向きと、第 2 蓋部材が第 2 被覆位置から第 2 露出位置に移動する向きとが異なるように第 1 蓋部材と第 2 蓋部材を取り付けたため、一方の蓋部材が対応する露出位置側に移動するよう針金等により引っ張られたとしても、他方の蓋部材が対応する露出位置に移動することを防止することができる。故に、第 1 操作部と第 2 操作部を共に露出させることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。加えて、針金等を用いて両蓋部材を対応する露出位置に移動させるためには、針金等を複数挿入させ、これら針金等を異なる向きに引っ張る必要がある。故に、不正行為を目立たせることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。

【 0 0 5 2 】

さらに、第 2 蓋部材が第 2 被覆位置にある場合、第 2 蓋部材により第 1 蓋部材が第 1 露出位置側に移動することを規制される。かかる構成においては、第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させない限り、第 1 蓋部材を第 1 露出位置に移動させることができず、第 2 蓋部材を第 2 露出位置側に移動させた後に第 1 蓋部材を第 1 露出位置側に移動させる必要がある。このように、両操作部を露出させるためには各蓋部材を特定の順序で移動させる必要がある構成とすることにより、両操作部が不正に露出されることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 5 3 】

このように両操作部が不正に露出されることを困難な構成とした場合、遊技機を設置する遊技場の管理者等が設定を変更する際の作業すなわち正規に設定を変更する際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。そこで、第 1 蓋部材が第 1 露出位置にある場合、第 1 蓋部材により第 2 蓋部材が第 2 被覆位置側に移動することを規制される構成とした。かかる構成とすることにより、遊技場の管理者等が第 2 蓋部材を第 2 被覆位置に移動しないように保持するのではなく第 1 蓋部材により第 2 蓋部材を保持させることが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【 0 0 5 4 】

以上の結果、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制しつつ、不正に設定が変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 0 5 5 】

以下、遊技機の一形態である回胴式遊技機、具体的にはスロットマシンに適用した場合の一実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1はスロットマシン10の正面図、図2はスロットマシン10の前面扉12を閉じた状態の斜視図、図3はスロットマシン10の前面扉12を開いた状態の斜視図、図4は前面扉12の背面図、図5は筐体11の正面図である。

【0056】

図1～図5に示すように、スロットマシン10は、その外殻を形成する筐体11を備えている。筐体11は、天板11a、底板11b、背板11c、左側板11d及び右側板11eからなり、全体として前面を開放した箱状に形成されている。

【0057】

筐体11の前面側には、前面扉12が開閉可能に取り付けられている。すなわち、筐体11には、その正面から見て左側部に上下一対の支軸13a、13bが設けられており、前面扉12には、各支軸13a、13bと対応する位置に軸受部14a、14bが設けられている。そして、各軸受部14a、14bに各支軸13a、13bが挿入された状態では、前面扉12が筐体11に対して両支軸13a、13bを結ぶ上下方向へ延びる開閉軸線を中心として回動可能に支持され、前面扉12の回動によって筐体11の前面開放側を開放したり閉鎖したりすることができるようになっている。また、前面扉12は、その裏面に設けられた施錠装置20によって開放不能な施錠状態とされる。前面扉12の右端側上部には、施錠装置20と一体化されたキーシリンダ21が設けられており、キーシリンダ21に対する所定のキー操作によって前記施錠状態が解除されるように構成されている。

【0058】

前面扉12の中央部上寄りには、遊技者に遊技状態を報知する遊技パネル25が設けられている。遊技パネル25には、縦長の3つの表示窓26L、26M、26Rが横並びに形成されており、各表示窓26L、26M、26Rを通じてスロットマシン10の内部が視認可能な状態となっている。なお、各表示窓26L、26M、26Rを1つにまとめて共通の表示窓としてもよい。

【0059】

図3に示すように、筐体11は仕切り板30によりその内部が上下2分割されており、仕切り板30の上部には、可変表示手段を構成するリールユニット31が取り付けられている。リールユニット31は、円筒状（円環状）にそれぞれ形成された左リール32L、中リール32M、右リール32Rを備えている。各リール32L、32M、32Rは、その中心軸線が当該リールの回転軸線となるように回転可能に支持されている。各リール32L、32M、32Rの回転軸線は略水平方向に延びる同一軸線上に配設され、それぞれのリール32L、32M、32Rが各表示窓26L、26M、26Rと1対1で対応している。したがって、各リール32L、32M、32Rの表面の一部はそれぞれ対応する表示窓26L、26M、26Rを通じて視認可能な状態となっている。また、リール32L、32M、32Rが正回転すると、各表示窓26L、26M、26Rを通じてリール32L、32M、32Rの表面は上から下へ向かって移動しているかのように映し出される。

【0060】

ここで、リールユニット31の構成を簡単に説明する。

【0061】

各リール32L、32M、32Rは、それぞれがステッピングモータに連結されており、各ステッピングモータの駆動により各リール32L、32M、32Rが個別に、すなわちそれぞれ独立して回転駆動し得る構成となっている。ステッピングモータは、例えば504パルスの駆動信号（以下、励磁パルスとも言う。）を与えることにより1回転されるように設定されており、この励磁パルスによってステッピングモータの回転位置、すなわちリールの回転位置が制御される。また、リールユニット31には、リールが1回転したことを検出するためのリールインデックスセンサが各リール32L、32M、32Rに設置されている。そして、リールインデックスセンサからは、リールが1回転したことを検

出した場合、その検出の都度、後述する主制御装置 101 に検出信号が出力されるようになっている。このため主制御装置 101 は、リールインデックスセンサの検出信号と、当該検出信号が入力されるまでに出力した励磁パルス数とに基づいて、各リール 32L, 32M, 32R の角度位置を 1 回転毎に確認するとともに補正することができる。

【0062】

各リール 32L, 32M, 32R の外周面には、その長辺方向（周回方向）に、識別情報としての図柄が複数個描かれている。より具体的には、21 個の図柄が等間隔に描かれている。このため、所定の位置においてある図柄を次の図柄へ切り替えるには、24 パルス（ $= 504 \text{ パルス} \div 21 \text{ 図柄}$ ）の励磁パルスの出力を要する。また、主制御装置 101 は、リールインデックスセンサの検出信号が入力されてから出力した励磁パルス数により、表示窓 26L, 26M, 26R から視認可能な状態となっている図柄を把握したり、表示窓 26L, 26M, 26R から視認可能な位置に所定の図柄を停止させたりする制御を行うことができる。

【0063】

各表示窓 26L, 26M, 26R は、対応するリールに付された 21 個の図柄のうち図柄全体を視認可能となる図柄が 3 個となるように形成されている。このため、各リール 32L, 32M, 32R がすべて停止している状態では、 $3 \times 3 = 9$ 個の図柄が表示窓 26L, 26M, 26R を介して視認可能な状態となる。本スロットマシン 10 では、これら 9 個の図柄が視認可能となる各位置を結ぶようにして、横方向へ平行に 3 本、斜め方向へたすき掛けに 2 本、計 5 本の組合せラインが設定されている。そして、有効化された組合せライン、すなわち有効ライン上に図柄が所定の組合せで停止した場合には、入賞成立として、遊技媒体たるメダルが所定数払い出される特典が付与されたり、ビッグボーナス（以下、「BB」とも言う）状態等に遊技状態が移行される特典が付与されたりするようになっている。

【0064】

遊技パネル 25 の下方左側には、各リール 32L, 32M, 32R の回転を開始させるために操作されるスタートレバー 41 が設けられている。スタートレバー 41 はリール 32L, 32M, 32R を回転開始、すなわち図柄の可変表示を開始させるべく操作される開始操作手段又は始動操作手段を構成する。所定数のメダルが投入されている状態でスタートレバー 41 を操作された場合、各リール 32L, 32M, 32R が回転を開始するようになっている。

【0065】

スタートレバー 41 の右側には、回転している各リール 32L, 32M, 32R を個別に停止させるために操作されるボタン状のストップスイッチ 42 ~ 44 が設けられている。各ストップスイッチ 42 ~ 44 は、停止対象となるリール 32L, 32M, 32R に対応する表示窓 26L, 26M, 26R の直下にそれぞれ配置されている。すなわち、左ストップスイッチ 42 が操作された場合には左リール 32L の回転が停止し、中ストップスイッチ 43 が操作された場合には中リール 32M の回転が停止し、右ストップスイッチ 44 が操作された場合には右リール 32R の回転が停止する。ストップスイッチ 42 ~ 44 はリール 32L, 32M, 32R の回転に基づく図柄の可変表示を停止させるべく操作される停止操作手段を構成する。

【0066】

表示窓 26L, 26M, 26R の下方右側には、メダルを投入するためのメダル投入口 45 が設けられている。メダル投入口 45 は遊技媒体を入力する入力手段を構成する。また、メダル投入口 45 が遊技者によりメダルを直接投入するという動作を伴う点に着目すれば、遊技媒体を直接入力する直接入力手段を構成するものとも言える。

【0067】

メダル投入口 45 から投入されたメダルは、前面扉 12 の背面に設けられた通路切替手段としてのセクタ 46 によって貯留用通路 47 が排出用通路 48 のいずれかへ導かれる。より詳しくは、セクタ 46 にはメダル通路切替ソレノイド 46a が設けられており、

そのメダル通路切替ソレノイド 4 6 a の非励磁時にはメダルが排出用通路 4 8 側に導かれ、前記メダル通路切替ソレノイド 4 6 a の励磁時にはメダルが貯留用通路 4 7 側に導かれるようになっている。貯留用通路 4 7 に導かれたメダルは、筐体 1 1 の内部に収納されたホッパ装置 5 1 へと導かれる。一方、排出用通路 4 8 に導かれたメダルは、前面扉 1 2 の前面下部に設けられたメダル排出口 4 9 からメダル受け皿 5 0 へと導かれ、遊技者に返還される。

【 0 0 6 8 】

ホッパ装置 5 1 は、メダルを貯留する貯留タンク 5 2 と、メダルを遊技者に払い出す払出装置 5 3 とより構成されている。払出装置 5 3 は、図示しないメダル払出用回転板を回転させることにより、排出用通路 4 8 に設けられた開口 4 8 a へメダルを排出し、排出用通路 4 8 を介してメダル受け皿 5 0 へメダルを払い出すようになっている。また、ホッパ装置 5 1 の右方には、貯留タンク 5 2 内に所定量以上のメダルが貯留されることを回避するための予備タンク 5 4 が設けられている。ホッパ装置 5 1 の貯留タンク 5 2 内部には、この貯留タンク 5 2 から予備タンク 5 4 へとメダルを排出する誘導プレート 5 2 a が設けられている。したがって、誘導プレート 5 2 a が設けられた高さ以上にメダルが貯留された場合、かかるメダルが予備タンク 5 4 に貯留されることとなる。

【 0 0 6 9 】

メダル投入口 4 5 の下方には、ボタン状の返却スイッチ 5 5 が設けられている。メダル投入口 4 5 に投入されたメダルがセレクト 4 6 内に詰まった状況下で返却スイッチ 5 5 を操作された場合、セレクト 4 6 が機械的に連動して動作され、当該セレクト 4 6 内に詰まったメダルがメダル排出口 4 9 から返却されるようになっている。

【 0 0 7 0 】

表示窓 2 6 L , 2 6 M , 2 6 R の下方左側には、遊技媒体としてのクレジットされた仮想メダルを一度に 3 枚投入するための第 1 クレジット投入スイッチ 5 6 が設けられている。また、第 1 クレジット投入スイッチ 5 6 の左方には、第 2 クレジット投入スイッチ 5 7 と、第 3 クレジット投入スイッチ 5 8 とが設けられている。第 2 クレジット投入スイッチ 5 7 は仮想メダルを一度に 2 枚投入するためのものであり、第 3 クレジット投入スイッチ 5 8 は仮想メダルを 1 枚投入するためのものである。各クレジット投入スイッチ 5 6 ~ 5 8 は前記メダル投入口 4 5 とともに遊技媒体を入力する入力手段を構成する。また、メダル投入口 4 5 が遊技者によりメダルを直接投入するという動作を伴うのに対し、各クレジット投入スイッチ 5 6 ~ 5 8 は貯留記憶に基づく仮想メダルの投入という動作を伴うに過ぎない点に着目すれば、遊技媒体を間接入力する間接入力手段を構成するものとも言える。

【 0 0 7 1 】

スタートレバー 4 1 の左方には、精算スイッチ 5 9 が設けられている。すなわち、本スロットマシン 1 0 では、所定の最大値（メダル 5 0 枚分）となるまでの余剰の投入メダルや入賞時の払出メダルを仮想メダルとして貯留記憶するクレジット機能を有しており、仮想メダルが貯留記憶されている状況下で精算スイッチ 5 9 を操作された場合、仮想メダルが現実のメダルとしてメダル排出口 4 9 から払い出されるようになっている。この場合、クレジットされた仮想メダルを現実のメダルとして払い出すという機能に着目すれば、精算スイッチ 5 9 は貯留記憶された遊技媒体を実際に払い出すための精算操作手段を構成するものとも言える。

【 0 0 7 2 】

遊技パネル 2 5 の表示窓 2 6 L , 2 6 M , 2 6 R 下方には、クレジットされている仮想メダル数を表示するクレジット表示部 6 0 と、B B 状態が終了するまでに払い出される残りのメダル数を表示する残払出枚数表示部 6 1 と、入賞成立時に払い出したメダルの枚数を表示する払出枚数表示部 6 2 とがそれぞれ設けられている。これら表示部 6 0 ~ 6 2 は 7 セグメント表示器によって構成されているが、液晶表示器等によって代替することは当然可能である。

【 0 0 7 3 】

前面扉 12 の上部には、遊技の進行に伴い点灯したり点滅したりする上部ランプ 63 と、遊技の進行に伴い種々の効果音を鳴らしたり、遊技者に遊技状態を報知したりする左右一対のスピーカ 64 と、遊技者に各種情報を与える補助表示部 65 とが設けられている。補助表示部 15 の背面には、上部ランプ 63 やスピーカ 64、補助表示部 65 を駆動させるための表示制御装置 81 が設けられている。

【0074】

筐体 11 の内部においてホッパ装置 51 の左方には、電源ボックス 70 が設けられている。電源ボックス 70 は、その内部に電源装置 91 を収容するとともに、電源スイッチ 71 を備えている。電源スイッチ 71 は、主制御装置 101 を始めとする各部に電源を供給するための起動スイッチである。

【0075】

リールユニット 31 の上方には、主制御装置ユニット 100 が取り付けられている。主制御装置ユニット 100 は、遊技を統括管理する主制御装置 101 と、主制御装置 101 を搭載する台座装置 151 とを備えている。台座装置 151 は、筐体 11 の背板 11c に取付固定されており、当該台座装置 151 の前面側に主制御装置 101 が搭載されている。つまり、主制御装置 101 は、筐体 11 内部において上部奥側に配置されている。

【0076】

ここで、主制御装置 101 の構成を、図 6 及び図 7 に基づいて説明する。図 6 は第 1 蓋部材 132 及び第 2 蓋部材 142 を閉鎖した状態を示す主制御装置 101 の正面図、図 7 は第 1 蓋部材 132 及び第 2 蓋部材 142 を開放した状態を示す主制御装置 101 の正面図である。なお、以下では、主制御装置 101 がスロットマシン 10 に取り付けられた状態（図 5 参照）を基準として、上下左右等の方向を特定することとする。

【0077】

主制御装置 101 は、制御基板としての主基板が基板ボックス 110 に収容されて構成されている。

【0078】

主基板は横長矩形状のプリント基板であって、その表面には、CPU や ROM 等を備えた IC チップの他に、被コネクタ受け部としてのソケット 103 等が搭載されている。ソケット 103 には、リールユニット 31 等の他の装置と接続されたケーブルコネクタ（図示略）や、スタートレバー 41 の操作を検出するスタート検出センサ、ストップスイッチ 42 ~ 44 の操作を個別に検出するストップ検出センサ等の各種センサが接続されるようになっており、主基板 102 は、これらセンサからの入力結果に基づいて各リール 32 L, 32 M, 32 R の回転及び停止やメダルの払出等の制御を実行する。

【0079】

主基板の前面側右部には、図 7 に示すように、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 が直付け実装されている。リセットスイッチ 104 は、スロットマシン 10 をエラー状態から復帰させる場合や、スロットマシン 10 の設定値（役の当選確率）を変更する場合に押し操作されるスイッチである。設定キースイッチ 105 は、設定値を変更する場合や設定値を確認する場合に操作されるスイッチである。設定キースイッチ 105 の先端面には設定キー挿入孔（図示略）が設けられており、ホール管理者等が設定キーを挿入して ON 側に回動操作（ON 操作）することにより、スロットマシン 10 の設定値を変更したりそのときの設定値を確認したりすることができるようになっている。主基板の前面側右下部には、設定キースイッチ 105 が ON 操作された場合に設定値を表示する設定表示部 106 が直付け実装されている。このように、主基板の一側部には、設定値の変更に関わるリセットスイッチ 104、設定キースイッチ 105 及び設定表示部 106 が集約配置されている。さらにいうと、前面扉 12 は筐体 11 の左側部の開閉軸線を中心として回動可能に支持されており、リセットスイッチ 104、設定キースイッチ 105 及び設定表示部 106 は、主基板の右部すなわち前面扉 12 の開放端側に設けられているため、ホール管理者等が設定値の変更等を容易に行うことができる。

【0080】

基板ボックス１１０は、主基板を前面側から覆うボックスカバーと、主基板を後面側から覆うボックスケースとが組み合わされて構成されている。ボックスカバー及びボックスケースは、透明な合成樹脂材料によってそれぞれ形成されている。

【００８１】

基板ボックス１１０の前面側すなわちボックスカバーには、その中央部に主基板のＩＣチップ等を收容するための收容部１１１が形成されている。また、基板ボックス１１０の前面側右部には、リセットスイッチ收容部１３１と設定キースイッチ收容部１４１が、上下に隣接して形成されている。リセットスイッチ收容部１３１には、透明な合成樹脂材料によって形成された第１蓋部材１３２がスライド移動可能に支持されており、設定キースイッチ收容部１４１には、透明な合成樹脂材料によって形成された第２蓋部材１４２がスライド移動可能に支持されている。リセットスイッチ收容部１３１の左方には、第１蓋部材１３２の左方への移動を規制するストッパ１５０が取り付けられている。收容部１１１の下方及び左方には、主基板のソケット１０３と対応する位置に、当該ソケット１０３を挿通するための挿通孔１１２が形成されている。本スロットマシン１０では、基板ボックス１１０、第１蓋部材１３２及び第２蓋部材１４２が透明な合成樹脂材料によって形成されているため、主基板に搭載されたリセットスイッチ１０４、設定キースイッチ１０５及び設定表示部１０６等が基板ボックス１１０等を介して視認できるようになっている。

【００８２】

基板ボックス１１０の上部には、前後に貫通する横長矩形の第１開口孔部１１８及び第２開口孔部１１９が、左右に並ぶようにしてボックスカバーとボックスケースのそれぞれに形成されている。第１開口孔部１１８の中央左部及び第２開口孔部１１９の中央右部には、基板ボックス１１０を封印するための第１封印部材１２０が、ボックスカバーとボックスケースのそれぞれに設けられている。封印について簡単に説明すると、ボックスカバー及びボックスケースの第１封印部材１２０に封印ピンが挿入された場合、ボックスベースとボックスカバーとが開放不能に結合されるようになっている。そして、主基板を基板ボックス１１０から取り出す場合には、封印ピンの挿入された第１封印部材１２０をボックスカバー及びボックスケースから切断することにより、ボックスベースとボックスカバーの結合状態を解除する。つまり、主基板を基板ボックス１１０から取り出した場合には、第１封印部材１２０の切断された痕跡がボックスベース及びボックスカバーに残ることとなる。故に、基板ボックス１１０の開放を行った旨の履歴をホール側で残しておけば、基板ボックス１１０を確認することで不正な開放が行われた旨を容易に発見することができる。ボックスケースの第１開口孔部１１８及び第２開口孔部１１９には、主制御装置１０１を台座装置１５１に封印するための第２封印部材１２１が、それぞれ２つずつ設けられている。

【００８３】

ここで、リセットスイッチ收容部１３１、設定キースイッチ收容部１４１及び両蓋部材１３２、１４２の構成を、図８～図１１に基づいてより詳細に説明する。図８は、第１蓋部材１３２及び第２蓋部材１４２が共に閉鎖された状態を示す要部拡大図、図９は、第１蓋部材１３２を開放位置まで移動させた状態を示す要部拡大図、図１０は、第１蓋部材１３２を規制解除位置まで移動させた状態を示す要部拡大図、図１１は、第１蓋部材１３２及び第２蓋部材１４２が共に開放された状態を示す要部拡大図である。

【００８４】

リセットスイッチ收容部１３１は、主基板と平行に延びる底板部１３３を有し、該底板部１３３のリセットスイッチ１０４と対応する位置には、リセットスイッチ１０４より若干大きな外径を有する開口孔１３３ａが形成されている。また、リセットスイッチ收容部１３１は、底板部１３３の周縁部から前方に直立形成された矩形棒状の壁部１３５を有している。壁部１３５のうち上側壁部１３５ａ及び下側壁部１３５ｂには、第１蓋部材１３２をスライド移動可能に支持するための案内溝部１３７ａ、１３７ｂが形成されている。案内溝部１３７ａ、１３７ｂは、リセットスイッチ１０４と対向する側及び左方に開放された形状となっている。また、下側壁部１３５ｂには、設定キースイッチ１０５の上方に

、先端面が案内溝部 1 3 7 b の後端面と同一平面となるよう切欠部 1 3 7 c が形成されている。

【 0 0 8 5 】

リセットスイッチ収容部 1 3 1 の前面側には、第 1 蓋部材 1 3 2 がスライド移動可能に取り付けられている。第 1 蓋部材 1 3 2 は、透明な合成樹脂材料によって全体として横長矩形に形成されており、その中央部には、前後に貫通するとともに下方に開口する開口部 1 3 2 a が形成されている。開口部 1 3 2 a は、第 2 蓋部材 1 4 2 の左右寸法より若干大きな左右寸法を有する一方、その上下寸法は第 2 蓋部材 1 4 2 の上下寸法より小さなものとなっている。また、開口部 1 3 2 a の左上部には、後述する第 2 蓋部材 1 4 2 の突出部 1 4 2 a を収容可能な収容部 1 3 2 b が形成されている。そして、第 1 蓋部材 1 3 2 の上部が上側壁部 1 3 5 a の案内溝部 1 3 7 a に挿入されるとともに第 1 蓋部材 1 3 2 の下部が下側壁部 1 3 7 b の案内溝部 1 3 7 b に挿入された状態では、第 1 蓋部材 1 3 2 がリセットスイッチ収容部 1 3 1 に対して左右方向にスライド移動可能に支持され、第 1 蓋部材 1 3 2 のスライド移動によってリセットスイッチ収容部 1 3 1 の前面開放側を開放したり閉鎖したりすることができるようになっている。かかる構成においては、第 1 蓋部材 1 3 2 が図 8 に示す閉鎖位置にある場合に、第 1 蓋部材 1 3 2 によってリセットスイッチ 1 0 4 の前面側が覆われ、第 1 蓋部材 1 3 2 が図 9 に示す開放位置にある場合に、リセットスイッチ 1 0 4 が露出することとなる。また、図示は省略するが、第 1 蓋部材 1 3 2 の後面とリセットスイッチ収容部 1 3 1 の左側壁部 1 3 5 c とには、第 1 蓋部材 1 3 2 を閉鎖位置側に付勢するコイルバネが設けられている。

【 0 0 8 6 】

設定キースイッチ収容部 1 4 1 は、主基板と平行に延びる底板部 1 4 3 を有し、該底板部 1 4 3 の設定キースイッチ 1 0 5 と対応する位置には、設定キースイッチ 1 0 5 より若干大きな外径を有する開口孔 1 4 3 a が形成されている。また、設定キースイッチ収容部 1 4 1 は、底板部 1 4 3 の周縁部から前方に直立形成された矩形棒状の壁部 1 4 5 を有している。本実施の形態では、リセットスイッチ収容部 1 3 1 の下側壁部 1 3 5 b を設定キースイッチ収容部 1 4 1 の上側壁部として共通使用することにより、リセットスイッチ 1 0 4 , 設定キースイッチ 1 0 5 , リセットスイッチ収容部 1 3 1 及び設定キースイッチ収容部 1 4 1 を集約配置している。壁部 1 4 5 のうち左側壁部 1 4 5 a 及び右側壁部 1 4 5 b には、第 2 蓋部材 1 4 2 をスライド移動可能に支持するための案内溝部 1 4 6 a , 1 4 6 b が形成されている。案内溝部 1 4 6 a , 1 4 6 b は、設定キースイッチ 1 0 5 と対向する側及び上方に開放された形状となっている。また、下側壁部 1 4 5 c には、両案内溝部 1 4 6 a , 1 4 6 b と連続するようにして係止溝部 1 4 7 が形成されている。

【 0 0 8 7 】

設定キースイッチ収容部 1 4 1 の前面側には、第 2 蓋部材 1 4 2 がスライド移動可能に取り付けられている。第 2 蓋部材 1 4 2 は、透明な合成樹脂材料によって全体として縦長矩形に形成されており、その左上部には、左方に向かって突出する突出部 1 4 2 a が形成されている。そして、第 2 蓋部材 1 4 2 の左部が左側壁部 1 4 5 a の案内溝部 1 4 6 a に挿入されるとともに第 2 蓋部材 1 4 2 の右部が右側壁部 1 4 5 b の案内溝部 1 4 6 b に挿入された状態では、第 2 蓋部材 1 4 2 が設定キースイッチ収容部 1 4 1 に対して上下方向にスライド移動可能に支持され、第 2 蓋部材 1 4 2 のスライド移動によって設定キースイッチ収容部 1 4 1 の前面開放側を開放したり閉鎖したりすることができるようになっている。かかる構成においては、第 2 蓋部材 1 4 2 が図 10 に示す閉鎖位置にある場合に、第 2 蓋部材 1 4 2 によって設定キースイッチ 1 0 5 の前面側が覆われ、第 2 蓋部材 1 4 2 が図 11 に示す開放位置にある場合に、設定キースイッチ 1 0 5 が露出することとなる。

【 0 0 8 8 】

ここで、第 1 蓋部材 1 3 2 と第 2 蓋部材 1 4 2 の取り付け作業について説明する。

【 0 0 8 9 】

第 1 蓋部材 1 3 2 と第 2 蓋部材 1 4 2 を対応する収容部 1 3 1 , 1 4 1 に取り付ける場合には、先ず第 2 蓋部材 1 4 2 を設定キースイッチ収容部 1 4 1 の上方から案内溝部 1 4

6 a, 1 4 6 bに挿入し、当該第2蓋部材1 4 2を下方にスライド移動させる。これにより、第2蓋部材1 4 2が設定キースイッチ収容部1 4 1に対して上下方向にスライド移動可能に支持される。

【0090】

第1蓋部材1 3 2をリセットスイッチ収容部1 3 1に取り付ける場合には、第2蓋部材1 4 2を閉鎖位置に移動させた後、第1蓋部材1 3 2をリセットスイッチ収容部1 3 1の左方から案内溝部1 3 7 a, 1 3 7 bに挿入し、当該第1蓋部材1 3 2を右方にスライド移動させる。これにより、第1蓋部材1 3 2がリセットスイッチ収容部1 3 1に対して左右方向にスライド移動可能に支持される。その後、基板ボックス1 1 0の収容部1 1 1にストッパ1 5 0を取り付け固定する。なお、第2蓋部材1 4 2よりも先に第1蓋部材1 3 2をリセットスイッチ収容部1 3 1に取り付けた場合には、当該第1蓋部材1 3 2と第2蓋部材1 4 2が干渉し、第2蓋部材1 4 2を設定キースイッチ収容部1 4 1に取り付けることができない。

【0091】

次に、第1蓋部材1 3 2及び第2蓋部材1 4 2の作用を説明する。

【0092】

第1蓋部材1 3 2を閉鎖側（すなわち右向き）にスライド移動させた場合、第1蓋部材1 3 2の右側面がリセットスイッチ収容部1 3 1の右側壁部1 3 5 dと当接し、閉鎖側へのそれ以上のスライド移動が規制される。第1蓋部材1 3 2が閉鎖側への移動を規制される閉鎖位置（図8参照）にある場合には、第1蓋部材1 3 2によってリセットスイッチ1 0 4の前面側が覆われるようになっている。また、第1蓋部材1 3 2と第2蓋部材1 4 2が共に閉鎖位置にある場合には、図8に示すように、第1蓋部材1 3 2の開口部1 3 2 aが第2蓋部材1 4 2と上下方向においてずれた位置に位置するようになっている。

【0093】

第1蓋部材1 3 2と第2蓋部材1 4 2が共に閉鎖位置にある状態から第1蓋部材1 3 2を開放側（すなわち左向き）にスライド移動させた場合、図9に示すように、第1蓋部材1 3 2の左側面がストッパ1 5 0と当接し、開放側へのそれ以上の移動が規制される。第1蓋部材1 3 2が開放側への移動を規制される開放位置にある場合には、リセットスイッチ1 0 4が露出し、当該リセットスイッチ1 0 4を操作することができる。また、第1蓋部材1 3 2が開放位置にあって第2蓋部材1 4 2が閉鎖位置にある場合には、第1蓋部材1 3 2の開口部1 3 2 aが第2蓋部材1 4 2と上下方向においてずれた位置に位置するようになっている。

【0094】

第2蓋部材1 4 2を閉鎖側（すなわち下向き）にスライド移動させた場合、第2蓋部材1 4 2の下部に係止溝部1 4 7に挿入されるとともに第2蓋部材1 4 2の下面に係止溝部1 4 7と当接し、閉鎖側へのそれ以上の移動が規制される。第2蓋部材1 4 2が閉鎖側への移動を規制される閉鎖位置（図8参照）にある場合には、第2蓋部材1 4 2によって設定キースイッチ1 0 5の前面側が覆われるようになっている。

【0095】

図8に示すように第1蓋部材1 3 2が閉鎖位置にある場合には、第2蓋部材1 4 2と第1蓋部材1 3 2の開口部1 3 2 aが上下方向においてずれた位置関係となるため、第2蓋部材1 4 2の開放側への移動が第1蓋部材1 3 2の下面によって規制される。また、図9に示すように第1蓋部材1 3 2が開放位置にある場合についても、第2蓋部材1 4 2と第1蓋部材1 3 2の開口部1 3 2 aが上下方向においてずれた位置関係となるため、第2蓋部材1 4 2の開放側への移動が第1蓋部材1 3 2の下面によって規制される。一方、第1蓋部材1 3 2を、当該第1蓋部材1 3 2の開口部1 3 2 aと第2蓋部材1 4 2が上下方向に並ぶ規制解除位置まで移動させた場合（図10参照）には、第2蓋部材1 4 2の規制が解除され、第2蓋部材1 4 2を開放側（すなわち上向き）にスライド移動させることができる。なお、第1蓋部材1 3 2が規制解除位置以外の位置に位置する場合には、いずれの場合であっても第2蓋部材1 4 2の開放側への移動が規制される。このように、第2蓋部

材 1 4 2 は、第 1 蓋部材 1 3 2 が規制解除位置にある場合に限り、開放側へ移動させることが可能となる。

【 0 0 9 6 】

第 1 蓋部材 1 3 2 が規制解除位置にある状況下で第 2 蓋部材 1 4 2 を開放側にスライド移動させた場合、第 2 蓋部材 1 4 2 の上面が第 1 蓋部材 1 3 2 の開口部 1 3 2 a 上面と当接し、開放側へのそれ以上の移動が規制される。第 2 蓋部材 1 4 2 がそれ以上の開放側への移動を規制される開放位置（図 1 1 参照）にある場合には、設定キースイッチ 1 0 5 が露出し、当該設定キースイッチ 1 0 5 を操作することができる。このとき、第 1 蓋部材 1 3 2 は第 2 蓋部材 1 4 2 によって開放位置側及び閉鎖位置側への移動が規制されることとなるが、第 1 蓋部材 1 3 2 が規制解除位置にある場合には、リセットスイッチ 1 0 4 が露出しているため、当該リセットスイッチ 1 0 4 を操作することができる。また、図 1 1 に示すように、第 1 蓋部材 1 3 2 が規制解除位置にあつて第 2 蓋部材 1 4 2 が開放位置にある状況において、ホール管理者等が第 1 蓋部材 1 3 2 に設けられたコイルバネの付勢力に抗する外力を第 1 蓋部材 1 3 2 に加えていない場合、第 1 蓋部材 1 3 2 の開口部 1 3 2 a 左側面と第 2 蓋部材 1 4 2 の左側面が当接し、第 2 蓋部材 1 4 2 によって第 1 蓋部材 1 3 2 の閉鎖位置側への移動が規制される。加えて、かかる状況においては、第 2 蓋部材 1 4 2 は重力による下向きの外力を受けているが、第 2 蓋部材 1 4 2 の突出部 1 4 2 a が第 1 蓋部材 1 3 2 の収容部 1 3 2 b と当接し、第 1 蓋部材 1 3 2 によって第 2 蓋部材 1 4 2 の落下すなわち閉鎖位置側への移動が規制される。

【 0 0 9 7 】

次に、ホール管理者等が設定値を変更する際の具体的な作業について説明する。

【 0 0 9 8 】

設定値を変更する場合には、先ず前面扉 1 2 を筐体 1 1 から開放し、電源が投入されている場合には電源スイッチ 7 1 を OFF 操作して電源を遮断する。その後、第 1 蓋部材 1 3 2 を閉鎖位置から規制解除位置に移動させた上で第 2 蓋部材 1 4 2 を閉鎖位置から開放位置に移動させ、設定キースイッチ 1 0 5 を露出させる。そして、設定キーを設定キースイッチ 1 0 5 へ挿入して ON 操作する。かかる状態で電源スイッチ 7 1 を ON 操作して電源を投入することにより、スロットマシン 1 0 の設定値を変更できるようになるとともに、設定表示部 1 0 6 にそのときの設定値（本実施の形態では「 1 」）が表示される。

【 0 0 9 9 】

第 1 蓋部材 1 3 2 を規制解除位置に移動させた場合にはリセットスイッチ 1 0 4 が露出しているため、電源スイッチ 7 1 を ON 操作して電源を投入した後、リセットスイッチ 1 0 4 を押し操作することにより、ホール管理者等の望む設定値に変更する。このとき、設定表示部 1 0 6 には、リセットスイッチ 1 0 4 の操作に伴って変更された設定値が表示される。ホール管理者等の望む設定値が設定表示部 1 0 6 に表示された場合には、スタートレバー 4 1 を操作して設定値を確定させる。その後、設定キースイッチ 1 0 5 を OFF 操作した上で設定キースイッチ 1 0 5 から設定キーを抜き取り、第 2 蓋部材 1 4 2 と第 1 蓋部材 1 3 2 を閉鎖位置に移動させ、前面扉 1 2 を閉鎖する。このとき、第 1 蓋部材 1 3 2 には閉鎖位置側に付勢するコイルバネが設けられているため、ホール管理者等が第 2 蓋部材 1 4 2 を閉鎖位置に移動させた場合には、第 1 蓋部材 1 3 2 が付勢力によって閉鎖位置に移動し、リセットスイッチ 1 0 4 及び設定キースイッチ 1 0 5 の前面側が被覆される。なお、本スロットマシン 1 0 には主基板 1 0 2 に搭載された設定表示部 1 0 6 を除いて設定値の表示される部位がないため、設定値の確認は上記設定表示部 1 0 6 を通じて行う必要がある。

【 0 1 0 0 】

ちなみに、電源が投入されている状況下でホール管理者等が設定キーを設定キースイッチ 1 0 5 へ挿入して ON 操作した場合には、そのときの設定値が設定表示部 1 0 6 に表示され、設定値を確認することができる。このとき、リセットスイッチ 1 0 4 を押し操作したとしても設定値を変更することはできない。

【 0 1 0 1 】

ここで、上記設定変更作業が行われた場合に主制御装置 101 が実行する当選確率設定処理について、図 12 のフローチャートを用いて説明する。主制御装置 101 は、停電からの復旧や電源スイッチ 71 の ON 操作によって電源が投入された場合、設定キーが設定キースイッチ 105 に挿入されて ON 操作されているか否かを判定する。ON 操作がなされている場合には、強制的 RAM クリア処理として RAM に記憶されたデータ（設定値に関するデータも含む）を全てクリアし、その後に当選確率設定処理を行う。本スロットマシン 10 には、「設定 1」から「設定 6」まで 6 段階の当選確率が予め用意されており、当選確率設定処理では、いずれの当選確率に基づいて内部処理を実行させるのかを設定する。

【0102】

先ず、ステップ S101 では、次のタイマ割込みを許可する。その後、ステップ S102 にて現在の設定値を読み込むとともに、ステップ S103 では現在の設定値を設定表示部 106 に表示する。但し、設定キーが挿入されて ON 操作された直後の処理では、先の強制的 RAM クリア処理により RAM のデータがクリアされているため、設定表示部 106 に表示される設定値は初期値の「1」である。

【0103】

ステップ S104 ではスタートレバー 41 が操作されたか否かを判定し、操作されていない場合にはステップ S105 ~ ステップ S106 に示す設定更新処理を行う。ステップ S105 では、リセットスイッチ 104 が操作されたか否かを判定する。リセットスイッチ 104 が操作されていない場合にはそのままステップ S103 に戻り、操作された場合にはステップ S106 にて設定値を 1 更新した後にステップ S103 に戻る。つまり、設定更新処理では、リセットスイッチ 104 が操作される毎に設定値が 1 更新され、更新された設定値が設定表示部 106 に表示される。なお、設定値が「6」のときにリセットスイッチ 104 が操作された場合、設定値は「1」に更新される。

【0104】

ステップ S104 にてスタートレバー 41 が操作された場合には、ステップ S107 にて設定キーの ON 操作が継続してなされているか否かを判定する。設定キーの ON 操作が継続してなされている場合にはそのまま待機し、ON 操作が終了された場合（OFF 操作された場合）にはステップ S108 にて次のタイマ割込みを禁止する。その後、ステップ S109 にて設定値を保存し、ステップ S110 にて RAM に記憶された設定値以外のデータをクリアして本処理を終了する。

【0105】

以上詳述した本実施の形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【0106】

リセットスイッチ収容部 131 の前面側に第 1 蓋部材 132 を設けてリセットスイッチ 104 の前面側が被覆される構成とするとともに、設定キースイッチ収容部 141 の前面側に第 2 蓋部材 142 を設けて設定キースイッチ 105 の前面側が被覆される構成とした。かかる構成とすることにより、仮に設定値を不正に変更すべく筐体 11 と前面扉 12 の隙間から針金等が挿入されたとしても、両蓋部材 132, 142 によって前記針金等をリセットスイッチ 104 や設定キースイッチ 105 に到達させることを困難なものとすることができる。

【0107】

確かに、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 の前面側を 1 の蓋部材で覆う構成とした場合であっても、針金等をリセットスイッチ 104 や設定キースイッチ 105 に到達させることを困難なものとすることができる。しかしながら、かかる構成においては、針金等によって当該蓋部材が開放位置側に引っ張られた場合、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 が共に露出して操作可能な状態となってしまう。一方、それぞれを別の蓋部材で被覆する本実施形態においては、各蓋部材を開放位置側に引っ張る必要が生じるため、1 の蓋部材で被覆する構成と比してリセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 を共に露出させることを困難なものとすることができる。

【 0 1 0 8 】

かかる一方、このように両蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 によってリセットスイッチ 1 0 4 及び設定キースイッチ 1 0 5 の前面側を覆う構成とした場合、ホール管理者等が設定変更を行う際の作業が煩雑化する可能性が懸念されるが、主基板の一侧部にリセットスイッチ 1 0 4 と設定キースイッチ 1 0 5 を集約配置するとともに、第 1 蓋部材 1 3 2 と第 2 蓋部材 1 4 2 を隣接して配置したため、前記作業の煩雑化を抑制することが可能となる。

【 0 1 0 9 】

第 1 蓋部材 1 3 2 が閉鎖位置から開放位置に移動する向きと、第 2 蓋部材 1 4 2 が閉鎖位置から開放位置に移動する向きとが異なるように第 1 蓋部材 1 3 2 と第 2 蓋部材 1 4 2 を取り付けた。かかる構成とすることにより、筐体 1 1 と前面扉 1 2 の隙間から針金等が挿入され、一方の蓋部材が開放位置側に移動するよう前記針金等により引っ張られたとしても、他方の蓋部材が開放位置に移動することを防止することができる。故に、仮に前面扉 1 2 を開放することなく又は少し開放させて筐体 1 1 と前面扉 1 2 の隙間から針金等が挿入されたとしても、リセットスイッチ 1 0 4 と設定キースイッチ 1 0 5 を共に露出させることを困難なものとすることができ、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。また、針金等を用いて両蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 を開放位置に移動させるためには、筐体 1 1 と前面扉 1 2 の隙間から針金等を複数挿入させ、これら針金等を異なる向きに引っ張る必要がある。故に、不正行為を目立たせることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。

【 0 1 1 0 】

第 2 蓋部材 1 4 2 の上方すなわち開放側に第 1 蓋部材 1 3 2 を配置し、第 1 蓋部材 1 3 2 が閉鎖位置にある場合には第 2 蓋部材 1 4 2 の開放側への移動が規制される構成とした。かかる構成においては、第 1 蓋部材 1 3 2 を規制解除位置に移動させない限り、第 2 蓋部材 1 4 2 を開放位置に移動させることができない。また、両蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 を開放位置に移動させるためには、第 1 蓋部材 1 3 2 第 2 蓋部材 1 4 2 という特定の順序で各蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 を移動させる必要があるとも言える。このように、各蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 を特定の順序で移動させることを条件としてリセットスイッチ 1 0 4 及び設定キースイッチ 1 0 5 が露出する構成とすることにより、筐体 1 1 から前面扉 1 2 を開放することなく又は僅かに開放させ、筐体 1 1 と前面扉 1 2 の隙間から針金等を用いて両蓋部材 1 3 2 , 1 4 2 を開放位置まで移動させる不正を困難なものとするができる。

【 0 1 1 1 】

第 1 蓋部材 1 3 2 には、第 1 蓋部材 1 3 2 が閉鎖位置と開放位置の間の規制解除位置に位置する場合に限って第 2 蓋部材 1 4 2 が開放側に移動可能となるように、開口部 1 3 2 a を形成した。かかる構成とすることにより、設定値が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。筐体 1 1 と前面扉 1 2 との隙間から針金等が挿入され、第 1 蓋部材 1 3 2 が開放側に移動するよう前記針金等により引っ張られた場合、第 1 蓋部材 1 3 2 は規制解除位置を通過し開放位置でそれ以上の開放側への移動が規制されることとなるが、第 1 蓋部材 1 3 2 が開放位置にある場合、第 2 蓋部材 1 4 2 は開放側への移動が規制されたままであり、第 2 蓋部材 1 4 2 を開放側に移動させることができない。したがって、筐体 1 1 から前面扉 1 2 を開放することなく設定値を変更する不正行為者は、第 1 蓋部材 1 3 2 の変位状況を視認できない状況下で第 1 蓋部材 1 3 2 を規制解除位置まで移動させ、さらに第 2 蓋部材 1 4 2 を開放側に移動させるために第 1 蓋部材 1 3 2 を当該規制解除位置で位置決め保持しなければならない。故に、リセットスイッチ 1 0 4 及び設定キースイッチ 1 0 5 を露出させることを困難なものとすることができ、設定値が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【 0 1 1 2 】

リセットスイッチ 1 0 4 の前面側を覆う第 1 蓋部材 1 3 2 が第 2 蓋部材 1 4 2 の開放側への移動を規制し、第 2 蓋部材 1 4 2 は第 1 蓋部材 1 3 2 が閉鎖位置にある場合に当該第 1 蓋部材 1 3 2 の開放側への移動を規制しない構成としたため、ホール管理者等の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。リセットスイッチ 1 0 4 は、設定値を変更

する場合の他に、スロットマシン 10 をエラー状態から復帰させる場合にも操作されるスイッチである。つまり、リセットスイッチ 104 は、ホールの営業時間内に操作される可能性があるとともに、設定キースイッチ 105 と比して操作される頻度が高い。そこで、リセットスイッチ 104 の前面側を覆う第 1 蓋部材 132 が第 2 蓋部材 142 の開放側への移動を規制し、第 2 蓋部材 142 は第 1 蓋部材 132 が閉鎖位置にある場合に当該第 1 蓋部材 132 の開放側への移動を規制しない構成とすることにより、第 2 蓋部材 142 を開放側に移動させることなく第 1 蓋部材 132 を開放側に移動させることが可能となり、ホール管理者等がスロットマシン 10 をエラー状態から復帰させる際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。さらにいうと、設定値を変更する場合には、設定キースイッチ 105 を ON 操作した後にリセットスイッチ 104 を操作する必要がある。このため、先に操作される設定キースイッチ 105 を覆う第 2 蓋部材 142 の移動が後に操作されるリセットスイッチ 104 を覆う第 1 蓋部材 132 によって規制される構成とすることにより、設定値を不正に変更する不正行為者の意欲を減退させることが可能となり、設定値を不正に変更する不正行為自体の抑止効果を期待できる。

【0113】

第 2 蓋部材 142 が開放位置にある場合、第 2 蓋部材 142 によって第 1 蓋部材 132 の開放側及び閉鎖側への移動が規制される構成とした。かかる構成とすることにより、ホール管理者等が第 1 蓋部材 132 を閉鎖位置に移動しないように保持するのではなく第 2 蓋部材 142 により第 1 蓋部材を保持させることが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。

【0114】

第 1 蓋部材 132 に閉鎖側に付勢するコイルバネを設け、第 2 蓋部材 142 が開放位置にある場合、第 1 蓋部材 132 により第 2 蓋部材 142 の閉鎖側への移動が規制される構成とした。かかる構成とすることにより、第 2 蓋部材 142 が開放位置にある場合、一方の蓋部材により他方の蓋部材が閉鎖側に移動することを規制することができる。故に、ホール管理者等が両蓋部材 132, 142 を閉鎖側に移動しないように保持することなくリセットスイッチ 104 や設定キースイッチ 105 を操作することが可能となり、正規に設定を変更する際の作業が煩雑化することを抑制することが可能となる。また、第 2 蓋部材 142 を閉鎖位置に移動させた場合には、第 1 蓋部材 132 がコイルバネの付勢力によって閉鎖位置に自動復帰するため、ホール管理者等が設定を変更した後に第 1 蓋部材 132 を閉鎖位置に移動させ忘れることを防止できる。

【0115】

第 1 蓋部材 132 が規制解除位置に位置する場合、リセットスイッチ 104 が露出する構成とした。かかる構成とすることにより、第 1 蓋部材 132 を規制解除位置まで移動させて第 2 蓋部材 142 を開放位置に移動させ、設定キースイッチ 105 を操作した後にさらに第 2 蓋部材 142 による第 1 蓋部材 132 の移動規制を解除して第 1 蓋部材 132 をリセットスイッチ 104 が露出する位置まで移動させるといった作業が不要となる。故に、ホール管理者等が設定を変更する際の作業を容易なものとすることが可能となる。

【0116】

リセットスイッチ 104 及び設定キースイッチ 105 を主基板に直接搭載したため、主基板とリセットスイッチ 104 を電氣的に接続するケーブル等や主基板と設定キースイッチ 105 を電氣的に接続するケーブル等が不要となる。この結果、リセットスイッチ 104 や設定キースイッチ 105 を操作するのではなく前記ケーブル等をショートさせて設定を変更する不正を防止することが可能となる。

【0117】

設定値を表示する設定表示部 106 を主基板にのみ設けたため、前面扉 12 を開放しなければ設定値を確認することができない構成とすることができ、前面扉 12 を筐体 11 から開放することなく設定を変更する不正を困難なものとすることが可能となる。ホール管理者等は、前面扉 12 を筐体 11 から開放した上で設定変更操作を行うため、設定表示部 106 に表示される設定値を確認しながらホール管理者等の望む設定値に変更することが

できる一方、針金等を用いて設定を変更する不正行為者は、設定値を確認することができないため、不正行為者の望む設定値に変更することができないからである。また、設定表示部 106 を主基板に直接搭載する構成としたため、設定表示部と主基板とを電氣的に接続するケーブル等が不要となる。この結果、設定表示部と主基板との間に不正基板等を電氣的に接続し、実際の設定値と異なる設定値を設定表示部に表示させることでホール管理者等にスロットマシン 10 の出率を誤認識させる不正を防止することが可能となる。さらにいうと、上記各不正すなわち遊技者側の不正のみならず、例えばホール管理者等が遊技者に対して行う不正すなわちホール側の不正をも抑制することが可能となる。例えば、前面扉 12 の後面側に設定表示部を設ける構成としても、針金等を用いて設定が変更される不正を困難なものとするのが可能である。しかしながら、例えばホール管理者等が設定表示部と主基板との間に不正基板等を設け、スロットマシン 10 の実際の設定値と異なる設定値を設定表示部に表示可能な構成とした場合、遊技者等は、設定表示部に表示される設定値を通じてスロットマシン 10 の設定値を誤認識し、遊技者等の想定する出率より低い出率での遊技を強いられる可能性がある。一方、主基板に設定表示部 106 を直接搭載した構成においては、基板ボックス 110 が封印されているためにホール管理者等であっても上記不正を行うことができず、遊技者等が不利益を被る不具合を回避することができる。

【0118】

設定表示部 106 を、リセットスイッチ 104 及び設定キースイッチ 105 の近傍に配置したため、ホール管理者等は視線をそれほど移動させることなく設定変更操作を行うことができる。故に、設定変更操作を容易なものとするのが可能となる。また、設定表示部 106、リセットスイッチ 104 及び設定キースイッチ 105 を主基板の一侧部に集約配置したため、設定変更に関わる上記各部材を主基板に直接搭載したとしても、CPU 等の電子部品の配置に関する設計自由度が低下することを抑制することが可能となる。さらにいうと、前面扉 12 は筐体 11 の左側部の開閉軸線を中心として回動可能に支持されており、リセットスイッチ 104、設定キースイッチ 105 及び設定表示部 106 は、主基板の右部すなわち前面扉 12 の開放端側に設けられているため、ホール管理者等が設定値の変更等を容易に行うことができる。

【0119】

主制御装置 101 を筐体 11 内部において上部奥側に配置したため、筐体 11 の前端部すなわち筐体 11 と前面扉 12 の隙間からリセットスイッチ 104 及び設定キースイッチ 105 までの距離を長くすることが可能となり、針金等を用いてリセットスイッチ 104 及び設定キースイッチ 105 を操作することを困難なものとするのが可能となる。

【0120】

なお、上述した実施の形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【0121】

(1) 上記実施の形態では、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 を主制御装置 101 に直接搭載する構成としたが、電源ボックス 70 に設ける構成としても良いし、前面扉 12 の後面側に設ける構成としても良い。これら構成とした場合であっても、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 を上述した第 1 蓋部材と第 2 蓋部材によって覆う構成とすれば、上記各実施の形態と同様の作用効果を奏することができる。

【0122】

(2) 上記実施の形態では、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 を上下に並ぶように配置したが、左右に並ぶように配置しても良いことは言うまでもない。左右に並ぶように配置した場合には、第 1 蓋部材を上下にスライド移動可能に支持される構成とするとともに、第 2 蓋部材を左右にスライド移動可能に支持される構成とすれば、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することが可能となる。

【0123】

(3) 上記実施の形態では、リセットスイッチ 104 の前面側を覆う第 1 蓋部材 132

が設定キースイッチ 105 の前面側を覆う第 2 蓋部材 142 の開放側への移動を規制する構成としたが、設定キースイッチの前面側を覆う蓋部材がリセットスイッチの前面側を覆う蓋部材の開放側への移動を規制する構成としても良い。例えば上記各実施の形態において、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 の配置を入れ替える。但し、かかる構成とした場合には、スロットマシン 10 をエラー状態から復帰させる場合に、設定キースイッチの前面側を覆う蓋部材を規制解除位置に移動させた上でリセットスイッチの前面側を覆う蓋部材を開放側に移動させなければならないため、エラー状態から復帰させる際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。

【0124】

(4) 上記実施の形態では、第 1 蓋部材 132 をその上部及び下部が案内溝部 137a, 137b に挿入されることでスライド移動可能に支持される構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、第 1 蓋部材 132 のスライド移動可能に支持される部位は任意である。例えば、第 1 蓋部材 132 の後面に左右方向に延びる上下一対の突出部を形成し、当該突出部が案内溝部に挿入されることでスライド移動可能に支持される構成としても良い。第 2 蓋部材 142 についても同様である。

【0125】

(5) 上記実施の形態では、第 1 蓋部材 132 を開放側に移動させた場合、ストッパ 150 によりそれ以上の開放側への移動が規制される構成としたが、かかる構成を変更する。すなわち、上記実施の形態におけるストッパ 150 を設けず、第 1 蓋部材 132 の左方への移動が規制されない構成とする。かかる構成とした場合には、筐体 11 と前面扉 12 との隙間から針金等が挿入され、第 1 蓋部材 132 が開放側に移動するよう前記針金等により引っ張られた場合、過度に引っ張ると第 1 蓋部材 132 がリセットスイッチ収容部 131 から落下することとなる。故に、設定が不正に変更された場合に第 1 蓋部材 132 の落下という痕跡を残させることが可能となり、不正行為を容易に発見することが可能となる。なお、かかる構成においては、第 1 蓋部材 132 に第 2 蓋部材 142 を挿入させることが可能な開口部 132a を設けずとも良い。ホール管理者等は、リセットスイッチ収容部 131 から第 1 蓋部材 132 を取り外した上で設定を変更し、その後にリセットスイッチ収容部 131 に第 1 蓋部材 132 を再度取り付ければ良いからである。

【0126】

(6) 上記実施の形態では、第 1 蓋部材 132 に前後に貫通する開口部 132a を形成したが、第 2 蓋部材 142 を挿入させることが可能な構成であれば良く、前後に貫通していなくても良い。前後に貫通していない開口部を設けた場合には、当該位置から針金等をリセットスイッチ収容部内に挿入させる不正を抑制することが可能となる。但し、かかる構成とした場合には、第 1 蓋部材が規制解除位置に位置し、第 2 蓋部材を開放側に移動させた場合に、第 1 蓋部材と第 2 蓋部材が干渉しないように開口部を形成する必要がある。

【0127】

(7) 上記実施の形態では、第 2 蓋部材 142 が開放位置に位置する場合、第 1 蓋部材 132 によって第 2 蓋部材 142 の閉鎖側への移動が規制される構成としたが、規制されない構成としても良い。但し、かかる構成とした場合には、第 2 蓋部材が閉鎖側に移動しないようホール管理者等が保持する必要が生じるため、設定を変更する際の作業が煩雑化する可能性が懸念される。

【0128】

(8) 上記実施の形態では、第 1 蓋部材 132 にのみ閉鎖側に付勢するコイルバネを設けたが、これに代えて又は加えて、第 2 蓋部材 142 に閉鎖側に付勢するコイルバネを設けても良いことは言うまでもない。

【0129】

(9) 上記実施の形態では、リセットスイッチ 104 と設定キースイッチ 105 を主制御装置 101 に直接搭載し、筐体 11 から前面扉 12 を開放した際に前方から両スイッチ 104, 105 が視認可能となる構成としたが、かかる構成を変更する。すなわち、電源ボックスの後面側にリセットスイッチ及び設定キースイッチを設け、これらスイッチを上

述した第1蓋部材と第2蓋部材によって覆う構成とする。かかる構成においては、筐体と前面扉の隙間から針金等が挿入された場合に、両蓋部材に加えて電源ボックスによっても両スイッチへの針金等の到達を阻止することができる。故に、設定が不正に変更されることを好適に抑制することが可能となる。

【0130】

(10) 上記実施の形態では、設定値を表示する機能を設定表示部106のみが有する構成としたが、設定表示部106に加えて、例えばクレジット表示部60に設定値を表示する機能を付与する構成としても良い。かかる構成とした場合であっても、主基板102に直接搭載された設定表示部106に表示される設定値を確認することで正規の設定値を把握することができるため、ホール管理者等が遊技者等に対して行う不正を抑制することが可能となる。但し、設定値を不正に変更する不正行為者がクレジット表示部60に表示される設定値を確認しながら不正行為者の望む設定値に変更する可能性が懸念される。このため、主基板に加えて他の部材にも設定表示部を設ける構成とする場合には、筐体内部又は前面扉の後面に設定表示部を設けることが望ましい。

【0131】

(11) 上記実施の形態では、設定表示部106を主基板102の前面右側部に設ける構成としたが、前面左側部に設ける構成としても良いし、前面中央部に設ける構成としても良く、配置する位置は任意である。

【0132】

(12) 上記実施の形態では、設定キースイッチ105をON操作している状態で電源を投入した場合、強制的RAMクリア処理を行って設定値を「1」とする構成としたが、強制的RAMクリア処理を行わない構成としても良いし、強制的RAMクリア処理にて設定値以外のデータをクリアする構成としても良い。

【0133】

(13) 上記実施の形態では、リセットスイッチ104が操作される毎に設定値が1ずつ更新される構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、設定値がランダムに更新される構成としても良いし、所定時間経過毎に設定値が自動更新され、ホール管理者等の望む設定値が表示された際にリセットスイッチ104を操作することで設定値が確定される構成としても良い。

【0134】

(14) 上記実施の形態では、スロットマシン10について具体化した例を示したが、複数の当選確率を有するとともに設定変更操作を行うことで当選確率を変更することが可能なパチンコ機に適用しても良いし、スロットマシンとパチンコ機とを融合した形式の遊技機に適用しても良い。

【図面の簡単な説明】

【0135】

【図1】一実施の形態におけるスロットマシンの正面図。

【図2】前面扉を閉じた状態を示すスロットマシンの斜視図。

【図3】前面扉を開いた状態を示すスロットマシンの斜視図。

【図4】前面扉の背面図。

【図5】筐体の正面図。

【図6】第1蓋部材及び第2蓋部材を閉鎖した状態を示す主制御装置の正面図。

【図7】第1蓋部材及び第2蓋部材を開放した状態を示す主制御装置の正面図。

【図8】第1蓋部材と第2蓋部材が共に閉鎖位置にある状態を示す要部拡大図。

【図9】第1蓋部材が開放位置にあって第2蓋部材が閉鎖位置にある状態を示す要部拡大図。

【図10】第1蓋部材が規制解除位置にあって第2蓋部材が閉鎖位置にある状態を示す要部拡大図。

【図11】第1蓋部材が規制解除位置にあって第2蓋部材が開放位置にある状態を示す要部拡大図。

【図 1 2】当選確率設定処理を示すフローチャート。

【符号の説明】

【 0 1 3 6 】

1 0 ... 遊技機としてのスロットマシン、1 1 ... 筐体、3 2 ... 循環表示手段を構成すると共に周回体としてのリール、4 1 ... 開始操作手段又は始動操作手段としてのスタートレバー、4 2 ~ 4 4 ... 停止操作手段としてのストップスイッチ、5 6 ~ 5 8 ... クレジット投入スイッチ、6 5 ... 補助演出部又は補助演出手段を構成する補助表示部、1 0 0 ... 主制御装置ユニット、1 0 1 ... 制御装置としての主制御装置、1 0 4 ... 第 1 操作部としてのリセットスイッチ、1 0 5 ... 第 2 操作部としての設定キースイッチ、1 0 6 ... 設定値表示部としての設定表示部、1 1 0 ... 基板ボックス、1 3 1 ... リセットスイッチ収容部、1 3 2 ... 第 1 移動部材としての第 1 蓋部材、1 3 2 a ... 開口部、1 3 2 b ... 収容部、1 3 7 a ... 案内溝部、1 3 7 b ... 案内溝部、1 3 7 c ... 切欠部、1 4 1 ... 設定キースイッチ収容部、1 4 2 ... 第 2 移動部材としての第 2 蓋部材、1 4 6 a ... 案内溝部、1 4 6 b ... 案内溝部、1 4 7 ... 係止溝部、1 5 0 ... ストップバ、1 5 1 ... 台座装置。